

平塚柔道物語 53

## 柔道と礼儀

平塚柔道協会 会長 奥山晴治

街で協会に来ている小中学生に出会うと、必ず、元気よく「会長、今日は!!」と、挨拶をしてくれる。大変、気持ちのよいものだ。協会の柔道場の入口から入って来た人に対しても、皆に「今晚は!!」と、練習をしている生徒が挨拶をする習慣ができています。小中学生共に礼儀正しくなっている。ほんとうに挨拶は気持ちのよいものである。

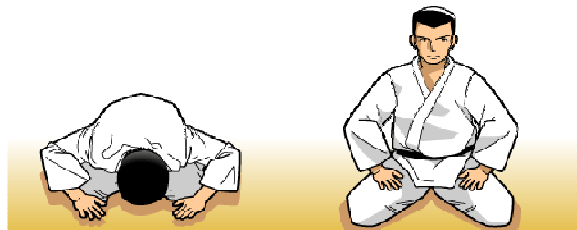
先日、私の家に解体屋さんが挨拶に来た。「明日から、隣の古い家を解体するので、ご迷惑をお掛けします」ということであった。翌朝、9時に玄関を開けると、もう工事が始まっていた。工事人は3人であったが、昨日挨拶をされた方が責任者らしく、「奥山さん、お早うございます」と大きな声と笑顔で挨拶してくれた。すぐに、後の2人も視線を向けて、いっしょに挨拶をする。私は「いよいよ始まりましたね」と声を掛けた。そして2日目に、朝玄関を開けると、昨日と同じように、3人が挨拶をしてくれた。私も挨拶をした後「だいぶ進みましたね」と声を掛けた。その翌日も全く同じように挨拶をされた。そして「今日で仕事は終わりなんですよ。お世話になりました」と責任者の方が云う。私は「えっ、もう終わりなんですか」と言いながら、何かその3人の方と別れるのが淋しいような気持ちになっていた。こんな会話をする中で、私は、いつの間にか、明日も工事を続けて欲しいような気持ちになっていたのである。名前を呼び、笑顔で相手の目を見る感じのよい挨拶は、私にとって、何とも云えぬ好感を持てしまったのであった。それは、挨拶を通して、私の存在を認め、大切に扱ってくれたということにあったのだろう。挨拶とは相手を認めることである。認められると、相手も認めたくなる

のが人情である。感じのよい挨拶こそ、人間関係を円滑にする潤滑油（じゅんかつゆ）なのではないだろうか。この解体屋さんにより、人間関係における挨拶の重要性を学ぶことができたのである。

全日本柔道連盟が発行した「柔道への想い—柔道と礼」という冊子の中に、次のような指導が載っていたので紹介したい。

「礼」とは良い人間関係をつくり、社会の秩序を保つためにぜひとも必要なものなのです。柔道における礼法については「礼とは自分の心を正しく持って、互いに敬愛の真を示す道である。人生は礼があつて、初めて正しくうるわしいものとなり、秩序に富んだ社会生活を現出するものである。柔道は社会生活における幸福の増進に貢献することを主眼とするので、互いに術を練磨するに当たっては、常に礼に始まり、礼に終わるのである。—中略— 柔道を習っている皆さんは、柔道で学んだ『礼』『挨拶』を道場の外で、どんどん実践して下さい。皆さんが『礼』『挨拶』を正しく実践することで、地域社会全体が秩序正しい安全で安心できる世の中になると信じています」とあった。

先日も、小学生の母親から「柔道をやったお陰で、近所の方からも『お宅の息子さんは、よく挨拶をしてくれる』と言われます」と喜びの声を聞く。このような話を聞くに付け、礼儀を重んじる日本文化、柔道をもう一度見直すべきではないかと思う。今後、さらに「柔道の礼」について、探究したことを論じてみたい。



柔道の座礼  
柔道用語辞典より引用